

厄よ 飛んでけー



2月3日の節分の日、新長谷寺（吉田観音）で恒例の節分会が行われました。厄年にあたる人など約800人が順次本堂で厄払いの祈とうを受け、廊下から豆やお菓子をまきました。「福はーうち」の掛け

声とともに飛んでくる豆やお菓子をつかもうと必死に手を伸ばす人や、落ちたお菓子を拾う人などで境内はごった返し、この日は朝から大勢の人でにぎわう一日となりました。

あんな事、こんな事



災害時にも安全・安心な水を

災害の時、被災者などに速やかな飲料水の提供を目的に、市と奥長良川名水株式会社が「災害時における生活必需物資の調達・運搬に関する協定」を結びました。同社が災害に関する協定を締結するのは初めてで、洞戸の自社倉庫に常時20万本の500mlペットボトル飲料水を保管しており、工場が被災しなければ1日に約4万本の飲料水を生産することができます。

地元の川への^{おも}想いを表現

洞戸小学校で2月15日、板取川上流漁業協同組合が板取川のロゴ・シンボルマークを発表しました。同組合が洞戸・板取地域に住む小中学生を対象に、ふるさとの川を誇りに思い、考えてもらう契機の一つとして募集したもので、約120点の応募がありました。マークはこれらの作品を基にデザイン化されており、同組合では今後あらゆる面でこのマークを活用する予定です。





人を知り、地域を知り、災害を知る

下有知ふれあいセンターで2月4日、災害図上訓練が行われ、下有知区の各区長など25人が参加しました。参加者は、市危機管理課職員の指導でグループに分かれて図面を作って、避難場所や軟弱な地盤など自分たちが住んでいる地域を再確認しました。また、避難するときの問題点やその解決方法など、災害時の行動について熱心に話し合っていました。

地道な取材と調査のたまもの

社団法人日本民営鉄道協会主催の第3回「私とみんてつ」小学生新聞コンクールで、瀬尻小学校4年生の尾関晴也君が優秀作品賞と全国小学校社会科研究協議会会長賞を受賞しました。尾関君は平成17年に廃線となった名鉄美濃町線を取り上げ、近所の人などに取材したり、自分も名鉄新鷺沼駅から電車に乗って調べたりして新聞を作成しました。



安全な登校のために

安桜小学校で2月5日、中濃地区交通安全協会関支部から同校へ交通安全旗100本が寄贈されました。この日は全校集会で旗の贈呈式が行われ、波多野隆俊支部長が「この旗は皆さんのお父さんやお母さんなど運転免許を持っている方々のお金も一部含まれていますので、大切に使って、毎日交通安全に気をつけて登校してください」と挨拶して旗が手渡されました。

若き刀匠の誕生

関伝日本刀鍛錬技術保存会の刀匠である高羽弘さん（刀匠名：弘宗）と長男の諒さん（刀匠名：秀忠）が市役所を訪れ、諒さんが文化庁主催の美術刀剣刀匠技術保存研修会で所定の課程を修了し、刀匠としての資格を得たことを市長に報告しました。これで同保存会の刀匠は18人となり、諒さんは「秀忠」の銘で刀剣を作ることができるようになりました。



こぼれ話



先日、岐阜市内にある岐阜新聞本社にお邪魔し、新聞の製作現場を見学させていただきました。広報や新聞に関わる仕事に携わってきましたが、新聞ができるところを見るのは初めてでした。見学した岐阜新聞製作センターには国内でも最新鋭の高速輪転機が設置されているとのことで、その日は夕刊ができるところを見せていただきました。一巻きが16キロメートル、重さ1.2トンもの巨大な

ロール紙を倉庫から機械にセットするのはコンピュータで制御された搬送ロボット。そして印刷機というより大型精密機械ともいべきオフセット輪転機からは、毎時15万部というスピードで夕刊が刷り上がり、裁断されて毎日届けられる“新聞”の形になって次々と積み上げられていきます。印刷工場はまるで近未来のハイテク工場といった感じで、想像とは全く違って驚きました。一般の方の見学もできるそうです。ぜひ一度、見学してみたいはいかがでしょうか。